



# 優 秀 賞

設計部門



## ハイアットリージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄

株式会社石勝エクステリア  
森 俊策・待野健太郎

### 計画概要と課題

本事業は沖縄本島中西部に位置する恩納村にある、瀬良垣島丸々1つを主要なホテル施設として、島と本島を渡す海中道路を村道として再整備し、その袂周辺をアネックス施設として計画された。

当初の現地調査にて島内を踏査し、その環境からリゾート空

間として際立たせるべき土地の魅力を拾い出した。来訪者がこの場所で得られる体験を想像する中で得られた象徴的なものとして、島を囲む青い海と感動的なまでの夕陽を際立たせた計画とすることが一貫した軸となった。

一方で、計画の軸としてフォーカスする沖縄の美しい自然は、時に厳しい一面を持ち合わせている。その中に在りながら人の為の楽園を整備する様に、ランドスケープ計画では自然を際立たせながらも、厳しい自然と人の空間とのバッファーとなる役割があり、その解決を検討することが計画を通じた課題であった。

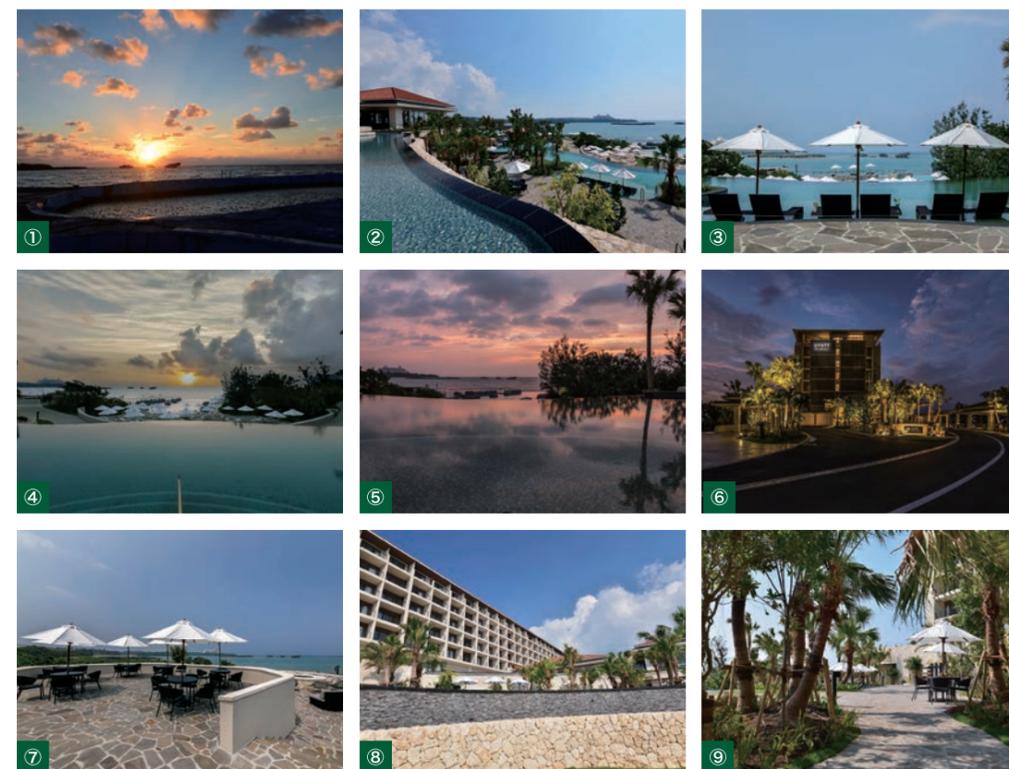
### 作品概要

作品名—— ハイアットリージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄  
所在地—— 沖縄県国頭群恩納村瀬良垣1108  
発注—— 東急不動産株式会社、NTT都市開発株式会社、株式会社ミリアルリゾートホテルズ  
設計—— 株式会社石勝エクステリア  
設計協力—— 東急設計コンサルタント、竹中工務店設計・監理共同企業体株式会社大洋土木コンサルタント株式会社イリス・アソシエーツ  
監理—— 株式会社石勝エクステリア  
施工—— 株式会社竹中工務店、株式会社石勝エクステリア  
設計期間—— 2015年7月～2018年6月  
施工期間—— 2017年6月～2018年6月  
規模—— 開発面積 約41,500m<sup>2</sup>  
主要施設—— ・琉球石灰岩のグスクウォール  
・インフィニティーエッジのプール及びキッズプール  
・インフィニティーエッジの海水プール  
・Seaバー及びオールダイニングのテラス・ファイヤーピット  
・チャペル前空間・ラウンジ前空間・海中道路・植栽etc.

### 作品評

ハイアットリージェンシー瀬良垣は、沖縄本島恩納村の美しい海に囲まれた瀬良垣島全体を丸々つかったリゾートである。応募者は、事業主からの依頼を受け、ランドスケープ全般の調査・提案・設計・監理を行った。瀬良垣島の特性を活かして、夕陽と海を際立たせること、地盤の変更を最小化して既存の地形を尊重すること等、厳しい植栽環境に対して設計・施工において創意工夫を凝らしている。  
写真からは応募者の意図した瀬良垣の自然を活かしたランドスケープの良さが十分に伝わってくるが、計画・設計等の技術の詳細にかかわる情報が提供されなかったのは残念であった。また、事業主・建築側から「外構造園設計」と呼ばれても、応募者には「ランドスケープ設計」と呼称して欲しかった、と思うのは選者だけであろうか。

設計部門



①現地調査で見た最初の夕陽 ②グスク上の水面から海へのつながり ③海とつながる水面 ④夕陽を引き込むインフィニティーエッジ ⑤夕陽を引き込み、つながる水面 ⑥海中道路からホテルエントランスを見る ⑦段々状のテラス ⑧段々状のグスクウォール ⑨緑に囲まれた多様な空間

### 課題の解決

外構空間ではほぼ全域が海拔6m以下であることから、強風が吹けば波を被ることを前提として施設や植栽を考える必要があり、また、海水プール・メインプールや各テラスは地盤の変更の最小化を図り、既存の地形を尊重しながら省力化することを主眼に計画した。それにより必然的に生まれる段々構造をまとめ上げるデザインコードとして、沖縄特有であるグスク(城)を採用しランドスケープと建築に共通する見所としている。ホテルの象徴的な3つの水面は、海と隣り合わせの海拔

2.0mの海水プールから、海拔5.8mのメインプール、海拔10.5mの2階水盤まで段々に構成され、それぞれが海の青と夕陽を建物まで引き込む装置でもあるよう計画している。

### Sense of arrivalの実現

来訪者は亜熱帯の緑とグスクのエントランスから海中道路を渡り、植栽に囲まれたロビーを通過して、海とつながる3つの水面によって際立った夕陽に辿り着く。体験を伴った各シーンがストーリーとなって感動を生むという、計画当初に得た着想を具現化できたことで他には無いホテルの魅力に貢献している。